

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年6月1日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670800244号
法人名	特定非営利活動法人NPOみなまた
事業所名	グループホーム三郎の家
所在地	鹿児島県出水市住吉町6-18 (電話) 0996-65-7740
自己評価作成日	H24年3月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境に関しては、海の入江にあり広縁からは海が一望できます。海が満たされていると何とも言えない癒しの場であります。利用者様によっては、広縁で本をみたり、ゆっくりとした時間を過ごすことを楽しまれている方もいます。日常生活の場面では、利用者様がゆっくり過ごせるよう、また出来ることは行っただけのよう支援しています。認知症の方の認知・認識しやすい状況とは？を考えての環境作りに努めています。

地域の行事への参加で職員は、出演者として参加し見学するだけでなく地域の一人として活動しています。地元出身の利用者様もいて、行事に参加すると挨拶や昔の話をされる方にも出会うことがあります。

今年度は、敬老の日にちなみ鹿児島水族館の無料の案内より、利用者様全員で車で鹿児島水族館まで行き、イルカのショーや水槽の魚など楽しみました。食事も利用者様に選んでいただき、いつにない表情をみることができました。

現在、介護職だけのグループホームですが、医療との連携で細かなケアの視点を伺いながら利用者様の症状でいつもの違いに気付けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年3月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

出水市の郊外に位置し、ホームの広縁からは美しい海も一望できる恵まれた環境に建てられている。管理者・職員は、理念を共有しており、家族から「質の良い介護が受けられ安心している。」との評価を得ている。職員は、自分の一生の仕事として、介護職に誇りを持ち、日々のケアに取り組んでいる。管理者は、働きやすく、働きがいがある職場環境づくりに配慮し、職員1人1人が、基礎から勉強し成長できるように努めている。個々の利用者に対して柔軟に対応し、希望をかなえてあげられるよう努力している。総体的に明るいイメージであり利用者一人の人間として大事にして安心安全にサービスが提供出来るように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「人権・安心・共生」をもとに、三郎の家独自の理念を、スタッフと共に作成している。しかし、理念を作成した時期のスタッフが入れ替わり、現在のスタッフへの浸透ができていないようである。掲示はしているが、不十分である。入職時のオリエンテーションでの説明を行っている。	ホーム独自に理念を作成している。職員や利用者の入れ替わりなどもあり、設立時の理念を現状に合ったものに見直す取り組みもしている。勉強会などを通じて共有し、日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会へ加入し、班長の月は配り物をしている。また、リサイクル当番・草むしりなど、当番があり参加している。自治会長の協力により、地域行事への参加が恒例となり、職員も催し物の出演者として参加している。今年度は、市の文化祭への展示へ参加。文化祭のセッティングの手伝いに参加している。開所当初より、隣の方が掃除や新聞取りなど世話をしてくださり交流してくださっている。	地元自治会に加入している。自治会総会に参加し、地域の様子や現状把握にも努めている。夏祭り、敬老会などには舞台参加するなど、利用者、職員とも地域の行事には積極的に参加して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議等で、参加した研修について報告を行うが、その際に出てくる言葉についてなど認知症に関する質問を受けた際には答えている。地域への発信としては、行っていない。しかし、近所の方から質問を受けた際には、認知症や施設に関することなどこたえることがある（管理者）日常生活場面より、利用者様との散歩で認知症の方であっても普通に生活されている・状況を見てもらっているのではないかと考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・介護保険課の職員・近所の方・ご家族の参加をもらい、2か月に1回の頻度で開催している。現場でのサービスの実際・課題など伝えながら、意見をいただき、それを現場のサービスに活かしている。（ミーティング等で報告）	定期的で開催している。自治会長、民生委員、介護保険課職員、地域代表、家族代表などが希望や意見などで積極的な発言をもらっている。議事録を公開し、現場のサービスに活かしている。	

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上で困っていることや疑問は、運営推進会議の後で個別に質問をしたり、電話・訪問などで相談し、アドバイスをいただいている。 また、市の職員からもグループホームでの現状などで、質問を受ける際にも、具体的に答えるなど協力関係を築けるようにしている。	運営推進会議の場を活用している。また毎月一回程度、市役所の担当者と情報交換し、日頃から協力関係作りをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の各施設長で組織している身体拘束廃止委員会の中で、各施設の状況を報告しあい、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。現状に関して、職員に確認した。入居されている方に応じて、玄関の施錠を行った時期があった。利用者様を守るためにも、自分達の力不足を感じながらも「これでいいのか？」を常に考えながら行う。必要性がなくなったら、施錠をすぐやめるようにした。 スタッフの評価にて、発言による言葉の抑制がないか？を確認していきたいとあった。普段から拘束とは・・・を考えながらケアが出来るようにしていきたい。	毎年1回、身体拘束廃止委員会を開催して身体拘束をしないケアについて学習し、取り組んでいる。毎月開く介護部会の中でも理解を深め、全職員で共有化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催の研修のなかで「高齢者虐待防止法等」について学ぶ機会を持ち、絶対に許されない行為として全職員が遵守に向け取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催の研修の中で「権利擁護」について学ぶ機会を持っている。現入居者様の中では、支援の必要性がないかたであるため活用していない。		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、丁寧に説明するように努めている。特に利用料・起こりうるリスク、個人情報取り扱い・加算等については詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の表情・言葉・態度から本人の意向を察するよう努めている。ご家族からは運営推進会議に出席されている方はその場で、意見をいただきミーティングなどで報告し改善につなげている。しかし、まだまだ意見を引き出せている状況にはないと思うので、ご家族の言動より（改善につなげるための）苦情と考え、より良い運営へ反映させていきたい。	運営推進会議や電話、手紙などの機会を活かして家族の意見や要望をくみ取るようにしている。利用者一人一人の記録を、毎日記入し、職員全員で情報共有している。平成24年4月からホームだよりを定期的に発行する予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面接やミーティング、普段の会話の中より、職員の意見を聞くようにしている。法人全体としては、年1回の総会や職員集会を開き、意見を聞く場を設けている。	職員は管理者などに対して日頃から意見や相談をしやすい環境になっている。実際に運営面や待遇面で改善されたこともある。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により職員の労働条件は整えられている。また、職員(特にパート)からあがってきた意見で給与面などの改善に向けての具体的な話し合いを行い整備に努めている。		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外での研修で、現在のスタッフに必要な研修は何かを考えながら、本人のレベルに応じて研修の声かけを行い、参加に結び付けている。</p> <p>新入職のスタッフに対しては、個別に管理者にて介護技術について本人の力量に応じて伝達している。</p> <p>また、管理者としても学ぶための研修に参加し自らも自己研鑽している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地域の連絡協議会に加入し、事例検討会や研修会に積極的に参加している。法人内での研修にも参加し他事業所のスタッフとの交流をもっている。また、地域の管理者との食事会を通じて交流する機会をつくり、積極的に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用の相談があったときには必ずご本人に会い、心身の状態や困りごと、ご本人の思いが把握できるよう努めている。(自宅の状況を見ることにより本人様の生活の状況見ると本人の大切にしていることも感じれると考え、出来るだけ実施している)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、ご家族の思いや考えを受け止めるよう努めている。そして、事業所としてどのような対応ができるかを含め、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思い、状況を把握したうえで、必要とされている支援が何なのか見極め、本人の思いを聞き返したり、無理に決めないような話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることをしてもらい、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。スタッフが利用者様に頼ったり助けてもらった場面を作り、年長者としての誇りや自信を引き出せるよう心がけている。		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会などを利用し、日々の状況を伝えており、共に本人を支える姿勢での関係づくりに努めている。 しかし、スタッフによっては、ご家族が困っていることはないか？を聞ける環境が出来ればいい・・・と考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流はあっても「場所」とまでは関係継続されていないと思う。	理美容師の、定期的な訪問があり、髪のカットをしてもらっている。友人の面会や墓参、外食など人間関係は継続して交流が続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングやダイニングでの座る位置など入居者同士の関係を把握し、調整している。 たとえ関係が良くない利用者様同士でもスタッフが間に入ることにより心通わず時間が持てるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院など、サービスの利用が終了された方に対しても職員が会いに行ったり、ご家族からの相談や話しをするなどの継続的な関係が続けていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者の言葉や表情から、思いや暮らしへの意向をくみとるよう努めている。しかし、自分達が把握しているつもり・・・になっていないかを考えていきたい。	利用者本人や家族の意向に沿うようにしている。一人ひとりの思い、暮らしの希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問し、ご本人やご家族から情報を得るようにしている。入居後も本人様よりこれまでの生活についての話を伺い、状況によってはそれをケアに活かすことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズム・心身の状態、出来る力をチーム全体で把握し、必要な時に必要な支援が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ話が聞ける状況を作っている。ご家族はこれまでの本人様の生活や性格を考えての意見を出してくださったりしている。利用者様には、普段の生活の中より、発言を伺いながら本人の希望を考えている。医師とは受診時に、細かく質問しスタッフは利用者の代弁者として発言し、プランに反映させている。	毎月一回ミーティングがあり、自由な雰囲気の中、職員が意見を出し合っている。利用者や家族からの意見を日頃から聞き、それぞれの状況に応じてプランを作成している。利用者の状況を全職員で把握している。	



鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子や職員の気づきは個々のケア記録に記入し、職員間で情報共有している。また、申し送りファイルを活用し、早目の対応が出来るよう介護計画の見直しにも活かしている。 これからも介護記録の在り方や、より良い記録が出来るよう改善していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを伺いながら、事業所として出来ることを柔軟に行っていると思う。例えば、症状があって入院されている方が、症状が改善したが食事が入りにくい状況があった。相談があったので、当初の予定より早めの退院をし、グループホームでのケア（本人の嗜好に合ったものを、本人の好むように）を行うケースがあった。（3人ほど、そのようなケースがあり）		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ、自治会長・民生委員・消防団などへの協力を依頼している。自治会長が地域での連絡網を作成し、高齢者世帯の安全対策を考えている。避難訓練など地域で行う際は、参加したい旨を伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医だけでなく、ご本人やご家族の希望するかかりつけ医の医療を受け入れるよう支援している。 皮膚科や歯科・耳鼻科など、症状がある際は、ご家族に相談し、これまでのかかりつけがあるかを伺い、ご希望も聞いて対応を行うようにしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診できるように支援をしている。利用者に同行して病院に適切な医療が受けられるように支援し、希望も受け入れて対応している。	

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>現在、看護師が不在である。協力医がかかりつけの利用者様に関しては、体調不良時には病院（看護師・医師）へすぐに相談し、現状を細かく相談するようにしている。</p> <p>他の利用者様に関しては、体調に大きな変化が見られた際は、スタッフが同行し、利用者様の情報を細かく伝え、またケアや観察の視点を細かく聞いてケアに活かしている。</p> <p>医師や看護師の発言に関しては、記録に細かく残すようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時や入院中・退院時の病状説明の時には、スタッフや管理者がご家族と一緒に参加し、または細かなケアの状況を情報提供し、早期退院に向けて皆で協議している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に対する指針を定めてあるが、グループホームとしてスタッフ全員での周知は出来ていない。</p> <p>また、利用者様ご家族様には、元気なうちから今は元気であるが、お年を召していることを忘れないでほしい・・・と、話すことはあるが、具体的な話は行っていない。今後、ご家族と話を行っていきたい。</p>	<p>重度化や終末期ケア対応指針を定めている。また看取り介護についての同意書を備えている。</p>	<p>入居時や比較的元気な段階から利用者本人、家族、ドクターも交えて話し合いの場を持つなどの取り組みに期待したい。また、節目節目でその都度話し合い、意思確認をするなどの工夫も望まれる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急蘇生法の講習会に参加している。転倒時対応について手順書を作り、すべての職員への周知を図っている。</p>		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や防災設備会社などの協力を得て、具体的な訓練を行っている。避難場所の確保や消防団や地域の青壮年の方を中心に緊急時のサポート体制づくりが出来ている。	年2回、火災を想定しての避難訓練を行っている。行政提供の防災資料をもとに知識の共有を図り、緊急時の協力体制づくりに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉遣いや対応がなかったか職員は日常的に点検し職員会議等で改善に向けて話し合っている。個人情報の取り扱いにも十分配慮し、情報の漏洩防止に努めている。	トイレの声かけも耳元で話すようにし、プライバシーにも配慮が行われている。着替えもカーテンを閉めてするようその都度職員間で注意しあっている。一人ひとりのプライバシーを損ねないように今後とも言葉対応にその都度注意しあうよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ささいなことでも、本人様が決めることが出来る場面を作るようにしている。入居者に合わせた声かけや働き掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごすか、希望にそっての支援は難しいが、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	鏡の前で、ご自身で整える場面を作っている。不十分なところや乱れはさりげなく職員が直している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の茶碗洗い、茶碗拭き・米とぎなどは、日常的に行ってもらっている。週に3日は利用者様と職員とで昼食づくりや準備を行うようにしている。	月・水・日曜日は、利用者とスタッフで調理している。利用者には主に野菜切りをしてもらっている。できる人たちみんなで配膳や茶碗ふきをしている。音楽を聴きながら、一人ひとり楽しく食事している。出来ることはみんなと一緒に楽しくやれるように日々努力している。	

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取は、チェック表を用いて、記録に残している。摂取方法は、24時間で摂取しやすい状況を作っていくよう工夫している。 食事に関しては、摂取状況を見ながら本人様の好みや量などを把握し支援している。食事作りでは、食材を多く使っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じ、声かけや介助を行っている。口腔ケアが難しい方は、本人に行ってもらった後に、再度スタッフが行うこともある。また、うがいが困難な方は口腔ケアガーゼを使用し、口腔内のマッサージをかねて清潔のケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	スタッフが排泄パターンを把握し、個々に応じて誘導や介助を行っている。状況によってはオムツ類やパット等の検討し、自立を妨げず気持ちよく排泄してもらえるよう工夫している。	食事の前と後に声掛けをしている。二時間ごとに声掛けをして支援している。体位変換も二時間ごとに実施している。一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄自立を今まで以上にできることを目指して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・オリゴ糖・寒天などを取り入れている。また、水分量や食事摂取量も適切かを確認している。一人ひとりの排泄パターンを知り、自然排便を促すよう工夫している。		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に入浴を午後からおこなうようにしている。入浴を拒否される方は、声かけの工夫を行ったり、時間をずらすなどして無理強いしないようにしている。入浴時の時間はゆっくりと楽しく会話するようにしている。	利用者の希望にあわせた入浴に工夫している。ゆっくり楽しく会話しながら入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況に応じて、落ち着かれる場所や時間で休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診時は必ず医師とのやり取りを記録に残し、薬の変更についてもスタッフが把握できるよう努めている。状態に変化が見られた時には直ぐに管理者に報告し、速やかに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性・能力・好みを把握し、その方の力が発揮できるよう支援に努めている。ホーム内の生活だけでなく外出や地域行事への参加の機会を持つようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての外出は出来ない。散歩や地域行事への参加、外食やドライブなど出かける機会を持つようにしている。	外食は年に1、2回実施しており、季節に応じて鶴見学や、花見に訪れたりしている。今後は家族や地域の人たちとも協力しあい、外出の機会を多くしたいと検討中である。	

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は施設で管理しているため、支援できていない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様により違いがある。子供さんより、はがきが来る方や、記念の日には贈り物が届きお礼の電話の支援をすることがある。(本人様自ら行おうとしてはいないのでスタッフが声かけ・セッティングを行っている) また、年賀状を家族に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング・ダイニングは、食事を作る時の音や匂いなど、生活感が身近に感じられる造りになっている。広縁やリビングの壁面は、季節を感じられるように手作りのカレンダーや花を飾っている。 音に関しては、スタッフのスリッパの音が不快となることもあるため、スタッフ間で注意し合っている。</p>	<p>天井の採光には、眩しくならないように手作りカーテンを作り、また、隙間テープなど工夫している。エアコンは利用者に風が当たらないように風向きをスタッフで調節している。より居心地良く過ごせる共有の空間にしたいと、季節の草花などを飾るなど工夫・検討している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや広縁にソファやテーブルを置き、思い思いに過ごせるように工夫している。入居者同士の関係を考慮し、座る位置を決めている。また、本人様が好む位置を知り、他の方が分からないで場所をとることがないように配慮している。</p>		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使用していた家具や寝具類をできるだけ持ってきてもらうようにしている。壁には家族の写真を飾り、好みの小物や本などを置いている。</p>	<p>自宅にいるという感覚を忘れないよう、自宅で使用していた家具・寝具などを持ち込んでもらっている。家族の写真や手作り人形などを飾ってある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様の身体状況に応じて、いすの高さや食台の高さを調整している。手すりをつけて移動しやすいようにしている。 トイレの表記や居室の表記を利用者様が読みやすかったり、認識しやすいものになっている。</p>		



**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム三郎の家

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム三郎の家

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない